



アスジャ・インターナショナル事務局 ASJA (Asia Japan Alumni) International
〒169-0074 新宿区北新宿3-22-7 東京日本語教育センター内
3-22-7, Kita-Shinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo 169-0074 JAPAN

TEL: 03-5338-1285

FAX: 03-5338-1286

URL: <http://www.asja.gr.jp>

E-Mail: info@asja.gr.jp



にほんせいかつたいけんけんしゅう

日本生活体験研修

へいせい ねん がつよつか もく なのか にち

【平成26年12月4日(木)～7日(日)】



圓光寺・オマールさんの墓前にて(12月6日)

今年度の日本生活体験研修は、紅葉の美しい京都で3泊4日の日程で行われました。アスジャ国費留学生22名と、引率として佐藤事務総長、岩本主幹、スタッフ3名が参加しました。

12月4日

研修初日は生憎の雨模様の中、東福寺、金閣寺、大徳寺、北野天満宮を訪問しました。紅葉の名所である東福寺では、見事な紅葉に早速近寄って写真を撮ったり、金閣寺ではその金色の美しさにあらためて感嘆する学生が多く見られました。

また、平成26年度の日本文化体験は、11月2日に茶道体験

を実施しましたが、「茶道」「千利休」というキーワードと大変ゆかりがある大徳寺を訪れることで、日本文化体験で学んだ内容をさらに深めることができました。

北野天満宮の本殿では、日本で実りある留学生生活を過ごせるよう、神式にお賽銭を投げお参りをする学生が多く見られました。



東福寺にて



金閣寺



大徳寺・金閣閣(重要文化財)



神式にお参りする学生(北野天満宮)

12月5日

研修 2 日目は快晴となりました。この日は西陣地区の町家、錦市場、京都大学iPS細胞研究所、西本願寺の訪問のち、高台寺の夜間特別拝観を行いました。朝早くから夜遅くまで京都の伝統から最先端の技術までを学びました。朝は「町家倶楽部」の小針剛先生と待ち合わせ、西陣町家界隈を散策しながら小針先生から詳しい説明を聞き、その後座学を受けました。その中で、古い物の保存が目的なのではなく、現代の日常生活に活かし使い続ける事が大切だという話を聞き、学生たちは感心した様子でした。



町家について説明を聞く学生たち



座学のように

続いて訪れた錦市場では、食品を味見したり京都ならではのお土産を購入したりして、学生たちは賑わう京の台所を体験する事ができました。その後、京都大学吉田キャンパスにあるiPS細胞研究所を訪れました。iPS細胞とこれまでの研究成果について説明を受けた後、研究室の内部見学を行いました。研究室への立ち入りは、アスジャ京都研修のために今回特別に許可されたものです。普段は限られた者のみが入室を許される研究室の中を案内され、多くの研究員が実際に研究をしている中を歩いて見学しました。ノーベル賞受賞者である山中伸弥先生のお部屋をガラス越しに案内された際には、学生たちも大喜びでした。

次に向かった西本願寺でも、今回の研修のために特別にご案内いただき、学生たちは阿弥陀堂、御影堂、書院、北能舞台、唐門、飛雲閣等の数々を拝観することができました。



錦市場で買い物



iPS細胞研究所での講義

学生たちは建造物・美術品の素晴らしさに見入り、お寺の方の話に耳を傾けました。2 日目最後に訪れたのは高台寺です。紅葉の時期は特別に夜間拝観を行っており、境内はライトアップされ昼間とは異なる表情を見せていました。学生は順路に沿って見学しましたが、霊屋の東にある茶室「傘亭」が千利休の意匠による茶席であると説明され、茶文化の影響にあらためて感心していました。



西本願寺・飛雲閣(国宝)



高台寺のライトアップ

12月6日

3 日目の訪問先は安達くみひも館、二条城、オマールさんの墓(圓光寺)、京都国際マンガミュージアム、下鴨神社でした。

朝、学生たちは安達くみひも館でストラップ制作体験をしました。職人さんから組み方の説明を聞いた後は皆無心に手を動かし、静かに集中した時間が流れました。

次に訪れた二条城では、ベテランの観光ガイドさんに案内されながら御殿内部を見学しました。二条城の見どころのひとつである「鶯 張りの廊下」では、廊下を歩くと鶯の鳴き声のように音が聞こえることを実際に自分たちで確認し、保安のために工夫された城の造りに大変感心していました。



くみひも製作体験



二条城・二の丸御殿(国宝)前にて

この日は昼食を兼ねて中間発表会を行いました。事前に得た京都に関する知識・情報と比べて、実際に体験した京都はどのようなものであったのか。この点をテーマに各自2分間のスピーチを行いました。研修でのそれぞれの思い出を、昼食をともにしながら語り合う機会となりました。



中間発表会(1)



中間発表会(2)

つづ えんこうじ ぼち おとず
 続いて、圓光寺にあるオマールさんの墓地を訪れました。
 ねん だい きなんほうとくべつりゅうがくせい らいにち
 オマールさんは1943年に第1期南方特別留学生として来日し
 た、マレーシア・ジョホール州の王族の若者です。来日後は
 とうきょう にほん ごけんしゅうご ひろしまぶんり か だいがく げんざい ひろしまだいがく
 東京での日本語研修後、広島文理科大学(現在の広島大学)
 に移り学生生活を送っていましたが、広島に投下された原爆
 りょう ひばく ご とうきょう む とちゅう きょうと はつしやう
 により寮で被爆。その後、東京に向かう途中に、京都で発症し
 げしや きょうだいふぞくびょういん にゆういん がつみつか きゅうせいほうしやせんしやうがい
 下車。京大付属病院に入院し、9月3日、急性放射線障害に
 きゅうせい せんじちゅう きび せいかつ にほん
 より急逝しました。戦時中の厳しい生活にあっても日本での
 べんがく はげ せいでん いた せいでん いた
 勉学に励んでいたオマールさん。しかしながら、彼も、痛まし
 せんそう ぎせいしや せい だいいせんばい
 い戦争の犠牲者となってしまいました。アスジャ生の大先輩で
 ぼぜん いちどう はな そな しき はか
 あるオマールさんの墓前に一同は花を供え、イスラム式の墓
 みず そそ いの へいわ ねが
 に水を注いで祈り、平和を願いました。



つぎ む きょうとこくさい
 次にバスで向かったのは、京都国際マンガミュージアムで
 にほん かいがい じょうほうか せい なか
 す。日本のマンガは海外でも評価され、アスジャ生の中には
 にほん にほんご まな もの
 日本のマンガやアニメをきっかけに日本語を学ぶ者もあり、
 べいせい はくぶつかんない み ある ぼくごく
 学生たちは博物館内のあちこちを見て歩きました。母国語で
 か て たし ろうかへきめん てんじ
 書かれたマンガを手にとって確かめたり、廊下壁面の展示を
 み へきめん かか きょだい ひ とり しやしん と
 見たり、壁面に掲げられた巨大な「火の鳥」と写真を撮ったりし
 て、思い思いの時間を過ごしました。
 やぶん ひ さいご けんしゅうさき しもがもじんじや む
 夜分、この日最後の研修先・下鴨神社へ向かいしました。ここ
 がくせい ふだんみみ こと みやび がくき
 では、学生たちは普段耳にする事のない雅やかな雅楽を聞
 じゅうにひとえ きつ しょうさ けんがく
 き、あでやかな十二単の着付けの所作を見学するという、
 たいへん げんそうてき たいけん
 大変めずらしく幻想的な体験をしました。

12月7日

さいしゅうび へいあんじんぐう つる やよしのぶ きよみずでら おとず
 最終日は、平安神宮、鶴屋吉信、清水寺を訪れました。
 さいしよ おとず へいあんじんぐう みやこ とうきょう うつ ため ひへい
 最初に訪れた平安神宮は、都が東京へ移った為に疲弊し
 てしまった京都に活気を取り戻す為、平安遷都1100年を記念
 ねん そうけん ねん きょうと みやこ うつ かん
 して1895年に創建されました。794年に京都に都を移した桓
 む てんのう きょうと さいご てんのう こう めいてんのう
 武天皇と、京都における最後の天皇となった孝明天皇とが、
 さいじん まつ おうてんもん だいくでん けんがく あと
 祭神として祀られています。応天門や、大極殿を見学した後、
 しんえん けんがく うつく いけ てい ゆ とど きぎ
 神苑を見学しました。美しい池や手入れの行き届いた木々の
 まえ がくせい と たが しやしん と
 前で学生たちはポーズを取り、互いにたくさんの写真を撮りま
 ひ ちやうと ていえん けつこんしき おこな
 した。またこの日は丁度、庭園で結婚式が行われており、
 しろむく はなよめ すがた とおま み でき
 白無垢をまとった花嫁の姿を遠巻きに見ることが出来まし
 た。

つる やよしのぶ ねんそうきょう にほん だいいほう しにせわ がしてん
 鶴屋吉信は1803年創業の日本を代表する老舗和菓子店で
 がくせい きょうが し しちやう こ
 す。学生たちは、京菓子についてのビデオを視聴し、その後、
 せいぞうぶちやう しょうにん じつえん せつめい う にほん しょうにん
 製造部長の職人さんから実演と説明を受け、日本の職人さん
 かしづく こ かんしや きせつ
 の菓子作りに込める「まごころ」に感謝しながら、季節の
 なまがし まつちや いろ なまがし
 生菓子とお抹茶をいただきました。色とりどりの生菓子は「き
 す た で たいへんうつく
 れい過ぎて食べられない！」というコメントが出るほど大変美
 しいものでした。

ほんけんしゅうさいご ほうもんさき きよみずでら がくせい きよみず
 本研修最後の訪問先である清水寺では、学生たちは「清水
 ぶたい ゆうめい ほんどう こくほう た きょうとしな いちぼう なが
 の舞台」で有名な本堂(国宝)に立ち、京都市内を一望する眺
 ぞんぶん たの きよみずでら さんどう さんさく
 めを存分に楽しみました。また、清水寺の参道を散策し、
 つけもの や はし せんず きょうとめいぶつ みせ つら もんせんまち
 漬物、八つ橋、扇子など、京都名物のお店が連なる門前町の
 かつき たの
 活気を楽しみました。

その後JR京都駅で解散となり、4日間続いた研修は終了
 しました。



平安神宮・応天門前にて



職人さんの菓子作りを見学

学生の感想

インドネシア男子学生

4-7 December 2014, it was the 1st experience for me in Kyoto. It is a good opportunity for all of us to know about the greatness of culture in Japan. Very beautiful sightseeing spots spread in every place that I've ever seen before. It was amazing and made me so excited to take some pictures and make poses like a professional models in every place during the study tour.



フィリピン女子学生

Overall, it was an enjoyable and educational program. Enjoyable since we got to experience and learn new things; educational, since we learned from these new things and even the locals who taught us about them. I felt honored to have been part of this study tour and be given a different peek into the culture-rich prefecture that is Kyoto.



フィリピン女子学生

Kyoto is not just about the history of the old capital of Japan. Despite its well-preserved past and without losing its identity, it also embraces the future by contributing world-class technology and uniquely Japanese art through entertainment and fashion.



タイ女子学生

何回も京都に行ったことがあるので、自分がすでによく京都のことを知っていると思った。しかし、自分が間違っていたと後に分かった。今回の研修はただ遊びに行くことではない。行く前に京都のことを勉強したり、茶道に参加したり、たくさん資料を読んで研究したりして、より深く京都のことを学んだ。「前はただ寄って写真を撮ったお寺がこんなに長い歴史があるのか」「見た目が古い京町家がこんな特徴があるのか」などはじめて知ってびっくりした。また、古いものだけではなく、「iPS細胞」や「漫画ミュージアム」など現代のことも見学しに行って本当に勉強になると思った。



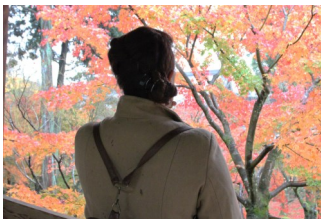
ミャンマー男子学生

During my trip, I found out that all historical buildings are well maintained. I felt that Myanmar people have to learn many things from Japanese. Even though Myanmar has a long history and rich cultures and traditions, Myanmar people are not very interested to maintain them. I understood that we should maintain our cultures and historical and traditional treasures after the trip.



カンボジア男子学生

It is incredible how Japanese culture caught my attention, every place, every temple, and every shop were amazing. There is something that impressed me apart from the kindness and respectfulness of every person in Japan. It was the amount of temples that are there, I was surprised with them, every time that I visited one I felt the peaceful and quietness that I needed, also in these temples I could imagine the ancient Japan, the old history of this wonderful country.



ラオス女子学生

様々なお寺を見学したことで、日本のお寺はお坊さんが宗教の行事などを行う場所とは感じただけではなく、だいたい昔から歴史上に記録してある場所を大事にして、次代の人たちにも見られるように、歴史を学ぶための場所ではないかと感じた。さらに、今回の研修で日本の歴史、特にいろいろな時代によっての特徴について研究するきっかけになった。これからラオス人だけではなく、他の外国人にも日本の歴史を伝えるようにしたいと思う。



フィリピン女子学生

"Tofukuji" gave me the whimsical feeling of autumn while "Kinkakuji's" Golden Pavilion shines brightly despite the awful weather. "Daitokuji" and "Kodaiji" gave me a panoramic view of the different Zen gardens, culture and architecture.



ブルネイ女子学生

There are few places throughout the entire trip still left an impressive image on my mind until today. "Kinkakuji" the one originally owned by one Japanese famous Shogun, Ashikaga Yoshimitsu and later changed to a Zen temple is one of the places that we had visited on the first day and I could still remember that I was shocked by the crowd despite on a raining day.



インドネシア男子学生

Another site that we visited is Kitano Tenmangu shrine. This shrine is famous due to closely related with education aspect in Kyoto. There is no huge buildings that attract eyes to see the glamorous but rather than deep in philosophy. Likely, people visit this temple for certain purpose, for example students who want to get success in their school periods.



インドネシア女子学生

町家の見学、昔の京都の町を歩いてみました。面白い町でした。家の形は細長くて、今のインドネシアの家の形に似ていると思っています。しかし、家の中で廊下があって、靴はそのまま入るのは、面白いと思っています。小針先生のお話を聞くと一番いいと思うのはその町家で人と人の関係を結ぶことを大事にしていること。そして、若い人は町家で日本の工芸品を守っていること。それで、日本ではもっと強くなって、文化も若い人が守ってするのは国が強くなると思います。

シンガポール女子学生

I like Japanese traditional houses and architecture very much and am glad and impressed by that strategies undertaken to help preserve these beautiful buildings, while at the same time benefitting the house owners and the renters and encouraging the young locals to develop their artist talents.

フィリピン女子学生

Kyoto is home to one of the leading universities in the country. Professor Shinya Yamanka who is the director of the Center for iPS Cell Research and Application or CiRA in Kyoto University, was awarded the Nobel Prize for Physiology in 2012. We toured around CiRA laboratory and we learned more about its cutting-edge research on stem cell technology.

マレーシア女子学生

Nishihonganji, which is a temple established in 1602 by the Shogun Tokugawa Ieyasu. The temple's compound is huge. I am very grateful that thanks to ASJA, I got the chance to enter the closed area of the temple. This chance is very rare. Most importantly, the explanation given throughout the whole visit was very detailed. Hence, I am able to understand the reason behind the architecture.

ラオス男子学生

京くみひも体験:この体験を通して、自分の好きな色ばかりで編むときれいなストラップができなく、他の色合わせて編んだほうがきれいになるということを学びました。それは、人の人生と同じで、自分の好きなことばかりやらないで、たまには自分が合うことをやったほうが人生を楽しむことができるでしょう。

タイ男子学生

We also learned historic knowledge along the trip. A great example here would be when we were in "Nijo Castle", we were guided to the residence and office of the Shogun. The tour route passed by multiple waiting and audience rooms. We learned differences between how high-ranked visitors and low ranked visitors were treated in the castle.

インドネシア男子学生

人間関係は人類、宗教、そして国籍に限らず、お互いを捧げ合い、助け合いということが大切です。差別や争いがなければ、この世界の平和が叶うことも難しくないと思います。平成26年12月6日、私達、アスジャ・インターナショナル国費留学生はオマール氏の墓の前で、彼と世界の平和のために祈りを送りました。もちろん、ムスリム留学生の私達はイスラム教徒式で行い、宗教同胞の彼に永遠の安らぎを神様に祈りました。平和な未来であるように。

マレーシア女子学生

実は、オマールさんを知った上で、頭の中で、色々と考えました。原子爆弾を使う手段は、そもそものような利益があるのでしょうか。無罪の一般人が、日本人だけでなく、そこにいた誰でも殺されてしまいました。お墓参りをしていたら、さらにこの考えが深くなりました。勉強のため、遠くに行った息子が、原子爆弾で死なれましたなんて、信じたくないでしょう。しかも、遺体を日本に残して、留学生の私達にあのときにあったことを見せてくれました。原子爆弾の被害は、日本人だけではないです。しかし、この情報は、オマールさんと同じくマレーシア人の私は全然知らなくて、本当に恥ずかしいです。

ベトナム女子学生

夜6時から8時半まで、外で演奏を見ました。演奏を見た後、雅楽の箏笛を吹かせてくれました。私も、吹いてみました。最初は、音がでなかったです。理由は、手で笛を強くくちぶるの下に押さなかったせいです。そのあと、私は教えてもらった通りにやったら、音ができました。とても嬉しかったです。この体験からも、日本人の我慢力がとても高いことが分かりました。

ベトナム女子学生

今回の日本生活体験研修のおかげで京都の有名なお菓子を食べたり、お菓子の作り方を見学したりしました。このお菓子の見た目はお花のように綺麗です。



にほんきぎょうけんがく 日本企業見学

へいせい ねん がいつ か もく むい か きん
【平成27年2月5日(木)～6日(金)】

はじ じぎょう にほん きぎょうけんがく おこな
初めての事業として、日本企業見学を行いました。この
じぎょう にほん だいきぎょう ちゅうしゅうきぎょう げんば ほうもん にほん
事業は、日本の大企業、中小企業の現場を訪問し、日本の
きぎょう じつたい ちよくせつたいけん にほん きぎょう りかい ふか
企業の実態を直接体験し、日本企業の理解を深めることを
もくてき ばくふつ か にってい じっし こんかい
目的として、1泊2日の日程で実施しました。今回は、ものつく
り大学(埼玉県行田市)、ニッコー株式会社(同市)、そして
にっさん じどうしゃ かぶしがいいしや はたら しゅうりょうせい あんない
日産自動車株式会社で働くアスジャ修了生の案内のもと
にっさんとちぎこうじょう とちぎけんかわちぐんかみのかわまち けんがく
日産栃木工場(栃木県河内郡上三川町)を見学しました。

2月5日

さいしょ おとず だいがく わざ ころ
最初に訪れたものづくり大学は、ものづくりの「技」と「心」
をあわせもつ有為な人材の育成と、ものづくり産業の発展を
めざ せつりつ じつぎ じつむ
目指すために設立されており、バランスのとれた実技・実務を
実践しています。ここでは、大学の概要の説明を伺ったのち、
かくせんもんか せんせい あんない がくない しせつ せつび けんがく
各専門科の先生の案内のもと、学内の施設・設備を見学しま
した。その後、同大学の学生と意見交換会を行いました。も
のづくり大学の学生たちは、留学生からの質問を受けて、
がっこうせいいかつ せんこうないよう しょうらい てんぽう はな りゅうがくせい
学校生活、専攻内容、将来の展望などを話しました。留学生
にほん いんしやう はな かつこく しょうかい おこな
たちは日本の印象について話したり、各国の紹介などを行っ
たりして、意見交換会は大いに盛り上がりしました。

つづいて、ものづくり大学のインターンシップ企業のひとつ
であるニッコー株式会社を訪問しました。ニッコー株式会社
みず かんきやう まも せいひん せいぞう おこな こんかいおとず
は、水の環境を守る製品の製造を行っており、今回訪れた
さいたまこうじょう じやう か そう せんもん せいぞう
埼玉工場では浄化槽を専門に製造しています。はじめに、
かぶしがいいしや がいよう せつめい こうぎけいしき う あと こうぎ
ニッコー株式会社の概要の説明を講義形式で受けた後、講義
ないよう こうてい かいせつ う
の内容をもとに、ひとつひとつの工程で解説を受けながら

こうじやうない けんがく おこな りゅうがくせい ときおりしつもん
工場内の見学を行いました。留学生たちは時折質問をしながら、
熱心に見学をしていました。
しやにち よる しゅうりょうせい むか
初日の夜、アスジャ・インターナショナルの修了生を迎え、
ゆうしよくこうりゅうかい おこな がくせい せい
夕食交流会を行いました。学生たちは、アスジャ生としての
こころがま い ぎ にほん しゅうしよく じっさい にほん きぎょう
心構えや意義、日本での就職について、実際に日本企業で
かつやく せんばい き じぶん しょうらい
活躍している先輩から聞きました。これにより、自分の将来の
すがた ぐたいてき たす じぎやう
姿を具体的にイメージする助けとなり、またアスジャ事業の
い ぎ あらた にんしき
意義についても改めて認識したようでした。

2月6日

ふつ か め しゅうりょうせい あんない にっさんとちぎこうじょう
2日目には、アスジャ修了生の案内のもと日産栃木工場を
ほうもん とちぎ こうじやう にっさん かぶしがいいしや
訪問しました。栃木工場では、はじめに日産株式会社の
がいよう とちぎ こうじやう がいよう きぎやう とく しゅうりょうせい たずさ
概要、栃木工場の概要と企業の取り組み、修了生の携わる
さいせんたん ぎじゆつかいはつ せつめい
最先端のステアリング技術開発についての説明がありまし
た。その後、マイクロバスに乗って、解説を受けながら実際に
そこう の かいせつ う じっさい
テストコースを走行しました。このコースは一般には公開され
ていないものですが、アスジャ修了生の手配により、今回
とくべつ けんがく じつげん がくせい とちぎ
特別に見学を実現することができました。学生たちは栃木
こうじやう せいさん しやりやういちだいいちだい そうこう おこな
工場で生産された車両一台一台の走行テストを行っている
とき おどろ ようす つぎ とちぎ こうじやう せいさん
聞き、驚いた様子でした。次に、栃木工場で生産されている
しやりやう せつめい う く た こうじやう つ
車両についての説明を受け、組み立て工場をガイド付きで
けんがく にほん きぎやう しゅうしよく よてい がくせい
見学しました。日本企業に就職する予定の学生にとってはも
ちろん、日本企業に就職する予定がない学生にとっても、
にほん きぎやう ぶんか し ゆう い ぎ じぎやう
「日本企業の文化を知ることのできる有意義な事業であった」
こえ き
との声が聞かれました。



ものづくり大学での意見交換会



浄化槽の説明を聞く(ニッコー株式会社)



夕食交流会のようす



日産栃木工場にて

学生の感想

インドネシア男子学生

From these activities I learnt that Japanese companies very concern on their product qualities, shown by the technology which they used also for the detailed product quality check with many criteria. In order to keep their brand still number one in the market and has a competitiveness with the other company products. Talk about the Monozukuri concept, I think it was so impressive, because students could make their own product based on their creativity. Monozukuri means making something which the emphasis is on the manpower and his skills. One thing that I can take from Monozukuri concept is making something different which has unique characteristic and useful for daily life.

マレーシア女子学生

日本人の態度は素晴らしいと思っている。日本人は仕事をしている時、真面目で一生懸命だ。工場の中ではただ機械の音が聞こえた、皆は喋らないでずっと働いていた。これは、とても大切と思う。そして、インフィニティの造り方は英語で「Made to order」ということだ。つまり在庫なしだ。だから、毎台の車は一番細かいところまでチェックされた。それは、とても大切だ。特に車は人の生命と関係があるものだ。

カンボジア男子学生

This project is a new ASJA activity this year and it is a very interesting one for me. It gave me the opportunity to visit Japanese companies which a rare occasion. It is the moment that I have been waiting for. This company visit confirms my belief that Japan has strong manufacturing industry equipped with advanced technology with the support of highly skilled labor. In the future, I feel that Japan is definitely the first country that I will visit in case I need high-tech manufacturing products for Cambodia.

ベトナム男子学生

I was really inspired by senpai for what he has been doing. He has learned a lot from Japan and develops himself to a very successful man. He also seemed to master the Monozukuri concept as his designs are really excellent. I think it can only be resulted from continuous hard work and true passion. I want to be like him someday, when I can contribute more to Japan and my country. Also, thanks to senpai, I now know which my weak point is and I believe I will try very hard to overcome.

だい かい こくさいりかいきょういく

第2回国際理解教育

へいせい ねん がつ にち きん

【平成27年2月27日(金)】

今年度2回目となる国際理解教育では、第1回と同じく新宿区立鶴巻小学校の6年生の学級を訪問し、3時限から給食の時間にかけて交流を行いました。今回は小学生が学習中である「食」のテーマに合わせて、留学生は各自の出身国の料理の作り方を教え、小学生も和菓子の白玉だんごを留学生に振る舞いました。第1回の訪問で交流をしていたことにより、留学生と小学生はすぐに打ち解け、協力して料理作りを行いました。小学生にとっては、普段は触れる機会の少ない東南アジアの料理を作り方から見たことで、料理の味だけでなく調味料や調理方法、その背景にある気候やその国の文化ま

で学ぶきっかけとなりました。留学生にとっても、この事業を通して日本の小学校の給食の文化や学校のシステムを学ぶだけでなく、小学生と草の根レベルの交流を通じて自分の国の文化を知ってもらい貴重な機会となり、双方にとって実りある事業となりました。



各国のあいさつの紹介



協力してベトナムの生春巻きを作ります

学生の感想

ミャンマー男子学生

They seemed to be interested even in very details of our preparation, like how we handle knives, which ingredients are used and added at what timing and, they also wanted to help us and take part in cooking. It's funny that they were too scared every time we added chili powder into the pot while cooking. I was quite relieved and happy only when I discovered that they found it delicious and not spicy during our lunch. It was very exciting and fun to cook together with these cute, little students and to share lunch with them. I really look forward to seeing them again.

ミャンマー女子学生

This time cooking our country food was much more interesting. Because I could cook together with children and had a chance to show them how we cook and what we use in Myanmar cuisine. Besides this, I also had a chance to eat school meal in Japan. Most importantly, I noticed that children were trained to clean up their own dishes after meal. This is a good proof that how children are trained to be responsible in elementary school in Japan. To sum up, it had been such a great cultural exchange and learning program for international students and school children.

ベトナム女子学生

私が気づいたのは、日本の教育はベトナムと違って、子供達を総合的に育てることを基本にしていることです。ベトナムの教育は学校で勉強ばかりさせています。それで、ベトナムの子供達はほとんど家事が出来ないという社会になっています。今後も、また日本の学校を訪問出来ればとおもっています。

今年度の研修合宿には、アスジャ国費留学生9名、アスジャ修了生1名、佐藤事務総長、スタッフ4名が参加し、埼玉県比企郡武蔵嵐山町にある国立女性教育会館とその周辺地域で研修が行われました。

3月6日

研修合宿初日、最初に埼玉県日高市にある醤遊王国・日高工場を訪れました。醤油はマレーシア政府イスラム法(ファトワ)委員会にて、2011年にハラール認定を受けており、今後の更なる国内外での消費が期待されています。学生は、工場職員の方による案内を受け、実際に目の前で動く機械を見たり、発酵途中の醤油を実際に見てにおいをかいだりしながら、醤油が作られる様子を学びました。

午後には、国立女性教育会館で、日本における男女共同参画社会の現状について講義を受けました。学生は、自国での状況と比較しながら、日本における女性活躍への課題についての理解を深めました。

講義の後、学生はそれぞれのグループに分かれて、ASEAN各国の料理づくりを始めました。今回は、インドネシア「ナシゴレン」、マレーシア「チキンの甘酢」、フィリピンの煮込み料理「カレカレ」、ベトナム「フォー」、ラオスのデザート「ナムワンサーリー」の5品を、レシピを作成し、材料を調達するところから全て学生が主体となって作りしました。準備が終わると、国立女性教育会館の西澤立志理事と、翌日の茶道体験の講師を務めてくださる先生方の計4名を迎え、交流会が始まりました。佐藤事務総長による挨拶の後、西澤理事に乾杯のご挨拶をいただき、学生たちは自分たちの作った料理についてゲストの方にわかりやすいよう気をつけながら説明しました。学生は協力して仕事を進めたり、ホストとしてお客様をもてなすことを実践の中で学んだだけでなく、異なる世代の方々と交流することによって視野を広げ、日本人に対する理解を深めました。

3月7日

2日目は、小川町にある埼玉伝統工芸会館を訪れ、手漉き和紙体験を行いました。「和紙 日本の手漉技術」は、2014年にユネスコの世界無形文化遺産に登録されたばかりの技術です。学生は、自らの手で紙をすき、思い思いの飾りつけをし、色紙を完成させました。作成中、BS日テレの取材を偶然受けることとなり、後日、学生が作った和紙を紹介する様子が放映されました。

和紙体験の後、同じ伝統工芸館内にある食堂で、江戸時代より小麦の生産が盛んであった埼玉県の名物であるうどんを味わいました。

午後は女性教育会館へ戻り、茶道・着付け体験を行いました。初めて着物に袖を通す学生も多く、その生地の様々や着心地を肌で感じ、親しむ機会となった他、11月の日本文化体験でも学んだ入室の所作、正座をして全員が静かに時間を感ずる場面も設けられ、茶道独特の世界を味わうことができました。茶道体験後、講師の杉山まさ江先生より茶道についての講義を受け、特に現代において茶道に親しむ意義について、学生は興味を持って聞いていました。

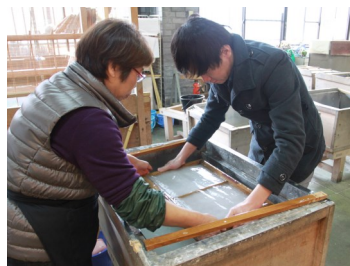
夕方から夜にかけて、ミーティングが行われました。はじめに、佐藤事務総長よりアスジャの歴史について詳しい説明を受け、学生は南方特別留学生の時代から続く日本と東南アジアの留学事業とその成果について学びました。その後、平成26年度アスジャ事業について、1人ひとりが意見を述べました。アスジャ事業は学生にとって意義深く、他の国費留学生とは異なる体験ができていることに感謝しているといった意見が全員から出されました。続いて、平成27年度の事業について事務局スタッフより説明を受け、来年度に向けて、先輩として新入生をどのように迎えるかについて活発に意見交換がされました。最後に、平成27年度アセアン文化交流事業：アセアン祭りに向けての話し合いが行われ、新入生とのコミュニケーション手段や宣伝方法についてアイデアが出されました。



醤油工場の見学



アセアン料理交流会のようす



手漉き和紙体験



茶道体験

3日目の午前中は、体育館で講師の小侯直由樹先生にご指導いただいてレクリエーションを行いました。全員で息を合わせて立ち上がった、フープを力を合わせて動かしたり、チームワークとコミュニケーション能力、リーダーシップについて実践形式で学ぶ機会となっただけでなく、学生同士の信頼関係も深めることができました。

レクリエーション活動の後、卓球とバドミントンでスポーツ交流を行いました。学生は思い思いの種目を選び、汗を流しながらストレスを発散し、学生同士の交流を深めました。

最後に、ミーティングルームに集合し、最後のミーティングを行いました。ここで改めて、佐藤事務総長よりアスジャ奨学生とアスジャ国費留学生との違いなどを中心に説明があり、アスジャの変遷について理解を深め、本事業は終了しました。



レクリエーション



最後のミーティング

学生の感想

マレーシアでは、生醤油と黒醤油の販売しかしていない。黒醤油は日本の醤油と違って、若干のとりもと甘みがあるのが特徴だ。日本には多種類の醤油があるため、来日してから、どちらをどんな時に使うかさっぱり分からなかった。用途は、つけ、かけ用としての卓上調味料をはじめ、煮物、焼物、だし、たれなどの調理用醤油も製造することからみると、「和食」文化の魅力が示唆される。醤遊王国の見学を通して、日々の料理に欠かせない調味料「醤油」の製造過程を深く理解した。

マレーシア男子学生

料理会で出されている料理は全部おいしかったです。それぞれ違う料理ですが、所々似ている特徴もあって、やはりみんなはアセアン諸国の出身だと実感することができました。料理を準備する時間もとても楽しかったです。同じ国の出身でもなかなか一緒に料理を作る機会がなくて、そういう風に協力し合って、一緒に一つの料理を作ることはとてもいいことだと思います。最後に、みんなで一緒に料理を食べながら、話し合うのはとても良かったと思います。料理のことを話題に、私は今まであまり話せなかった人といっぱい話すことができ、とても楽しかったです。

マレーシア男子学生

On the second day, we went to learn how to make Washi – a traditional hand-crafted paper which is well known for its high quality. In the factory, we were taught to create blank Washi sheets from paper fibers, and how to decorate them. I think the decoration requires a lot of skills in craftsmanship and I was really excited to see the beautiful work from Japanese experts. I really enjoyed the experience of decorating my own Washi, too.

ベトナム男子学生

私にとっては茶道をアスジャの活動で二回もやりましたが、今回は他と違う経験だと思います。今回の茶会では主人としても着物姿で行うことが特別だと思います。また、前回の茶道体験と異なって、先生達も細かい式で行うことがとても良い点だと思います。少し真面目な雰囲気でしたが、今回はとても茶道のスピリットを感じることができました。

インドネシア男子学生

This study camp is like a yin-yang program for me. I don't cook but I love sports! The Recreation and Sport Exchange program for me is the best part of this camp. I think our batch in ASJA is really close to each other (I guess the other batches will also claim this). But this event made us even closer. We worked, strategized and laughed together. We played together as well as with the ASJA staff. Sato-sensei wa totemo genki desu! He played table tennis nonstop and it was 'sugoi'.

フィリピン女子学生

There is still more things to learn about Japan and ASJA. I truly believe that learning is a never-ending cycle. Once you think you already learned a lot, that is the time when you stop living. I am grateful to Sato sensei and to the rest of the ASJA staff for constructing different activities that will help us learn and understand everything around us.

フィリピン女子学生



にほんぶんかたいけん かぶき 日本文化体験(歌舞伎)

へいせい ねん がつ にち にち
【平成27年3月15日(日)】

平成26年度2回目の日本文化体験では、歌舞伎「梅雨小袖 昔八条・三人形」を千代田区にある国立劇場にて鑑賞しました。午前中は、午後より始まる演目の解説のレクチャーを受け、あらずじと作品の背景、見所を学びました。

午後はいよいよ劇場内に入り、歌舞伎を鑑賞しました。学生たちは女形の優美な演技や迫力ある演技、舞台装置に感銘を受けたようでした。イヤホンガイドを使用し鑑賞することで、古典の日本語を理解する手助けとなり、学生は作品の内容に集中することができました。また幕間には、幕の内弁当を食べ、幕の内弁当の由来についても学びました。

平成25年度の日本文化体験で歌舞伎を鑑賞した学生もいましたが、前は古典作品、今回は近代作品と2種類の

歌舞伎を比較し、違いを味わっていました。学生は自国にある伝統芸能と比較しながら、継承される日本の伝統芸能を見習って、自国の伝統芸能を活性化させたいという声もありました。



学生の感想

マレーシア女子学生

I once heard these words from a senior- "To watch Kabuki is to know Japanese culture". After 2 times of kabuki-watching, however, I realized that Kabuki is indeed a cultural activity, but a cultural activity that is enjoyed by both common Japanese and non-Japanese people. I realized that, despite the fact that the language may be not comprehensible to everyone, the plot could be understood adequately.

シンガポール女子学生

The Makunouchi bento came about because in the past, Kabuki performances used to last about an entire day and audiences would be hungry for lunch. Bringing a bento along became a common practice and today, the Makunouchi bento is a popular item sold next to the performance hall.

カンボジア男子学生

I have learnt that to be an actor in the Kabuki, it is required lots of hard training. Every single play seemed quite difficult, and it requires not only training but real talent. It is a very beautiful traditional performance, and deserved to be protected as Japanese national treasure. I have learnt that Japanese people give much value to their traditional performance.

ラオス女子学生

私の国も歌舞伎のような芸能があるが、顔を濃く化粧するし、子供のときから怖くて最後まで見たことはない。そのため内容的には日本とどう違うかは比べられないと思う。でも、違う点は舞台の背景が変わることである。ラオスの芸能は舞台の背景がただ絵で書いて、変わるときもカーテンみたいに何枚も重ねて、一枚ずつ変わると思う。そして、芸能人は男だけではなく、女の人もするそうである。

アスジャ事務局だより

—編集後記—

4月より、新たに21名のアスジャ国費留学生を迎えました。特に今年は学部生が5名も加わり、アスジャ生の平均年齢が一気に若返りました。皆とても協力的で、日本語が得意な学生も多く、これからの彼らの成長が楽しみです。

◇◇ 今後のスケジュール ◇◇

＜4月＞ 平成27年度アスジャ国費留学生歓迎会
オリエンテーション

—次回予定—

次号(30号)は2015年7月に刊行予定です。ASJAニュースレターに関するご意見、ご要望、など皆様からのお声を、ASJAニュースレター編集担当・有馬までメール(info@asja.gr.jp)にてお聞かせください。